

農作物技術情報 第3号の要約

令和3年5月27日発行

岩手県、岩手県農作物気象災害防止対策本部

作目	技術の要約
水稲	<p>生育状況: 県全体の田植え盛期は平年並み。苗は平年に比べ乾物重が少なく充実度はやや劣る。</p> <p>技術対策 分けつ発生を促進させるため、好天時は浅水とする。低温・強風時は深水とする。 目標とする茎数が確保されたら、すみやかに中干しを行う。 取置苗はいもち病の伝染源になるので、直ちに処分する。 斑点米カメムシのふ化盛期は平年並みと予測される。地域一斉草刈によりカメムシの密度低減に努める。</p>
畑作物	<p>生育状況: 小麦の出穂期は平年並となった。生育が旺盛な圃場が多く、今後の天候によっては収穫作業が早まる可能性もある。</p> <p>技術対策 小麦: 赤かび病防除は適期に確実に実施する。圃場での抜き穂作業は、穂が青く見やすい時期に実施する。収穫作業に備え、早めに乾燥施設との連携や収穫機械の整備などを行い、万全の体制を整える。 大豆: 排水対策・耕起・砕土などを丁寧に行う。種子消毒・播種・除草剤の散布などは計画的に実施し、適正な栽植密度を確保する。</p>
野菜	<p>生育状況: 施設果菜類は順調～やや遅れの生育で、収穫が始まっている。露地果菜類は5月下旬～6月上旬頃が定植のピークとなる見込み。雨よけほうれんそう、露地葉菜類は例年並みの生育。一部で降霜による生育のばらつきが見られる。</p> <p>技術対策 全般: 圃場の排水対策を徹底するとともに、生育促進、施肥効率の改善等をはかるため、適時灌水を行う。 施設果菜類: 温度・湿度管理を徹底し、草勢維持に努めるとともに、病虫害の初期防除を徹底する。 露地果菜類: 定植後の活着促進と初期生育確保のため、土壌水分と地温の確保に努める。 雨よけほうれんそう: ハウスの換気や、圃場水分管理を適切に行い、病虫害の発生や生育不良を防ぐ。 露地葉菜類: コナガ、ナモグリバエ等害虫の適期防除を行う。アスパラガスは収穫が終了した後、茎葉が繁茂する前に茎枯病対策を実施する。ねぎは生育状況を見ながら培土を行う。</p>
花き	<p>生育状況: りんどうの生育は平年並みのところが多い。育苗は良好で6月上旬より定植が始まる見込み。小ぎくは8月咲品種ではほぼ平年並みの定植となり生育は概ね順調。9月咲品種の育苗は順調で定植が始まっている。</p> <p>技術対策 りんどう: 草丈が最も伸長する時期なので乾燥時はかん水する。病虫害は、リンドウホソハマキ、ハダニ類の適期防除に努める。 小ぎく: 乾燥時はかん水する。摘心、整枝作業が遅れないよう計画的に進める。白さび病は、発生状況に応じて予防剤と治療剤を適切に使い分ける。</p>
果樹	<p>生育状況: りんごの開花は平年より7日早まり、ぶどうの生育も平年より7日程度早い。りんごでは、凍霜害の影響により、著しい園地で着果不足が、他の園地でも果実品質の低下が懸念される。</p> <p>技術対策 りんご: 凍霜害の影響を受けた園地では、結実を確認してから摘果を開始し、できるだけ良果を残すように摘果を進める。病虫害では、黒星病とハダニ類の発生動向に注意し、薬剤は降雨前散布を心がける。 ぶどう: 気温が高く経過すると開花は平年より早まるので、計画的に開花前後の管理を進める。</p>
畜産	<p>生育状況: 県全体で、牧草の生育は平年並～やや遅れている。飼料用トウモロコシの播種は平年並。</p> <p>技術対策 牧草: 一番草の収穫・調製のタイミングは、飼料の栄養成分、収量に大きく影響するので、適期収穫を行う。 飼料用とうもろこし: 収量確保とサイレージの品質向上のため、除草剤の土壌処理、生育期処理を行う。虫害が発生しやすい時期となるので、早期発見に努め被害拡大を防止する。 家畜: 暑熱対策は本格的に暑くなる前に行う。</p>

詳細については「いわてアグリベンチャーネット」をご覧ください。 <https://www.pref.iwate.jp/agri/i-agri/> (「いわてアグリ」と検索すると上位に表示されます)

○農薬適正使用: 使用前に必ずラベルを確認し、使用基準の厳守と飛散防止を心がけてください。

○春の農作業安全月間実施中(4月15日～6月15日) 「全集中 ゆとりの呼吸で 安全作業」

次号は令和3年6月24日(木)発行の予定です